



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



昭和大学歯科医学教育者のためのワークショップを終えて

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

7月29日から3日間、富士吉田校舎にて「第13回歯科医学教育者のためのワークショップ」を開催しました。招聘タスクとして、東京大学医学教育国際協力研究センターの大西弘高先生を含め、53名の教員に参加していただきました。メインテーマは「歯科医学教育における評価を考える」ということで、アドバンスドグループは17名の教授を中心に、「卒業の要件」と「歯学部に必要な英語教育」について、ご討議いただきました。



「卒業の要件」に関する問題点として、1)卒業試験が比較的浅い知識中心で問題解決レベルの知識は評価していないこと、2)臨床実習終了後、技能・態度を評価していないことが挙げられました。1)に対しては臨床実習の充実により、臨床の場で問題解決できる深い知識を習得させ、その評価を行うべきである、2)に対しては臨床実習中あるいは終了時にOSCA (Advanced OSCE)を実施するという合意が得られました。

「歯学部に必要な英語教育」に関する問題点としては、学生の多様なニーズや能力の違いへの対応が不十分で、英語教育が低学年で終了していることが挙げられました。英語の能力別クラス分けが必要で、各講座で医学・歯学英語の教育を行うべきであるという点で合意が得られました。

国家試験合格率の低下と入試志願者数の激減という本歯学部が直面している厳しい状況の中で、教授を中心に「本学がどのような学生を育てるのか」に関しご討議いただき、問題点の把握と今後の方向性に関して、合意が得られたことは大きな収穫であったと考えます。卒後の臨床研修を見据えた学部における技術・態度教育を充実させていくために、現在、各講座に基礎・臨床実習における履修内容のチェックと臨床実習における到達度を評価するためのOSCAの項目の選定作業を依頼中です。11月には香港大学から講師を招いて、OSCAに関する講演会を企画し、来年1月に実務を担当する先生方を香港大学で行われるOSCAに派遣し、今年度中に臨床実習におけるOSCA実施に向けて準備を進めていきたいと考

えています。

問題解決レベルの知識を習得することは、国家試験合格に必須であるばかりでなく、臨床能力が高い歯科医師の養成に必須であると考えます。従来の想起・解釈レベルの浅い知識を評価するMCQに加えて、新たな評価法が必須ですので、引き続き大西先生を講師として招き、セミナーを開催し、評価に関する理解を深めながら、新たな評価法を検討していきたいと考えております。

今回ビギナーグループの先生方には本年度実施した「D2臨床入門」に続く、「D3臨床入門」に取り組んでいただきました。活発な討議の結果、アドバンスドグループに負けないプロダクトを作成していただきました。是非討議を通じて得られた教育についての知識と情熱を日々の学生指導に生かしていただければと思います。最後に、ワークショップの運営にご尽力いただいた教務課の方々とワークショップ委員の先生方に感謝します。



中学生の職場体験学習

昭和大学歯科病院 管理課 志賀 耕二

大田区の職場体験推進協議会と教育委員会は、中学生としての望ましい社会性・勤労観・職業観を育てることを目的として、地域の企業等と学校が協力して職場体験学習を実施しています。昭和大学歯科病院では昨年からの区立田園調布中学校の生徒さんを受け入れています。今年は2年生1名を受け入れました。3日間の短い期間でしたが、ほぼすべての診療科の見学と教授等による歯科医療の説明や、衛生士・歯科技工士からの話もいただきました。また「多くの学生が一生懸命勉強しているのを見て、私も頑張ろうと思いました」との感想を述べていました。今後、こうした地域社会への貢献を病院として積極的に行っていくつもりです。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

第28回昭和歯学会総会開催

口腔解剖学教室 江川 薫

第28回昭和歯学会総会が平成20年6月28日(土)に昭和大学歯科病院6階第1臨床講堂で開催されました。宮崎隆会長の



開会の辞に引き続き9時から一般講演の発表が始まり、午前中は11演題が発表されました。11時から上條奨学賞研究補助受賞講演として、口腔生化学教室の高見正道先生が「破骨細胞分化の分子メカニズム—細胞に見る免疫と骨代謝の接点—」と題して講演されました。続いて評議員会および総会が開かれました。担当理事から庶務報告、学会報告、編集報告がなされ、平成19年度会計決算と会計監査報告の後、平成20年度活動計画案および会計予算案が承認されました。

13時から特別講演として、日本大学大学院総合科学研究科 泰羅雅登先生に「脳機能イメージング:歯科研究と関連して」と題して講演していただきました。続いて研究紹介講演として、総合内科学教室の井上紳先生が「感染性心内膜炎予防—米国心臓協会ガイドラインから—」と題して講演されました。

再び午後の一般講演が行われ、5演題が発表されました。15時40分に榎宏太郎歯科病院副院長から閉会の辞があり、盛会のうちに総会は終了しました。

ピエールフォシャルアカデミー国際歯学会奨学金を授与されて

D5 高須 玲美

このたびは、ピエールフォシャルアカデミー(PFA)国際歯学会奨学金を授与されて大変光栄に思っています。ありがとうございました。PFA国際歯学会という団体があることを知りませんでしたので、奨学金の授与も予想しておらず、とても驚きました。多くの歯学生の中から選んでいただいたことを真摯に受け止め、PFA奨学金を大切にに使わせていただきます。PFAの言う“各国の歯科大学・歯学部の学生の中から、学業成績に優れ且つリーダーシップをとり将来が期待される学生”という趣旨に沿えるよう、今後は、より一層努力し、将来は歯科医学と歯科医療の発展に貢献していきたいと思っております。



学部合同オープンキャンパス(旗の台)

歯科薬理学教室 山田 庄司

昨年に引き続き、医学部、歯学部、薬学部の合同オープンキャンパスが平成20年7月25日(金)、旗の台キャンパスで行われました。昨年は第1



回目ということもあり、各学部がそれぞれに説明会、模擬実習、模擬授業、個別相談会などを持ち寄り、参加者が自由に選択して参加できる3学部のオープンキャンパスでした。今年度はカリキュラムに学部横断授業が増えたこともあり、学部の紹介というより旗の台キャンパスの紹介というニュアンスが強く表れていました。

当日は大変な猛暑の中、436組(歯学部39組)の受験希望者とその父兄が参加し、プログラムを片手に真剣なまなざしで各会場のブースを回っていました。



特に各学部に設けられた「在学生との語り合いコーナー」では、寮生活やクラブ活動などについて談笑を交えながら話し合っていました。

最後に学生スタッフ(総勢17名)には、前述の語り合いコーナーだけでなく、受付から各模擬実習まで幅広く活躍していただきました。ありがとうございました。

口腔ケアセンターの基本マニュアルができました

昭和大学口腔ケアセンター長 向井 美恵

昭和大学口腔ケアセンターは本年4月に開設されました。各病院の連携と多職種でチーム医療を行うには基本マニュアルは不可欠となります。本マニュアルには口腔ケアが標準化して記されています。これまで、口腔ケアに関する資料は多く出ていますが、標準化しようとしたものはほとんどありません。基本マニュアルでは、器質的ケア、機能的ケアのそれぞれについて3段階に分けて標準化してあります。口腔ケアを標準化することによって院内のクリニカルパスが容易となり、退院後の地域連携パスに繋げようとする意図があります。標準化されたマニュアルを基に、チーム医療によって、口腔のケアを通して在院中のQOLの向上のみならず退院後も視野にして基本マニュアルを活用していく所存です。昭和大学のホームページに掲載予定です。

留学生との再会

昭和大学名誉教授 川和 忠治

昨年の3月、30年近く務めた昭和大学を定年退職し、早いもので1年3ヵ月が過ぎました。

現在、アジアの歯科医療の発展に寄与するため、2003年に東京医科歯科大学を中心に設立された「アジアデンタルフォーラム(ADF)」という組織に携わ



っています。その関係で昨年の11月上海市で開催された「第1回上海日中デンタルフォーラム」の学術講演で1

週間出張しました。また、今年4月には、来年の開催地を決めるために北京、重慶、上海市の視察に行きました。重慶は初めてでしたが、長江(揚子江)上流の丘陵地帯にあり、美しい山々に囲まれた風光明媚な所でした。また、タクシーのほとんどが日本のスズキというのにも驚かされました。現地の人からはこのあたりはあまり地震がないと聞いていたので、帰国後の5月12日の四川大地震には本当にビックリしました。

今回、6月5-8日まで北京市の北京展覧館で「第13回シノデンタル」と同時に開かれた「第3回 北京日中デンタルフォーラム」の講演会を開催してきました。この講演会で、保存学教室に留学していた呉(Wu)先生と会場でお会いし、今までに中国から昭和大学歯学部へ留学した先生方は約20名程度がいると伺いました。また、6月6日に先生の計らいで留学していた6名の先生方と交流をする機会を持つことが出来ました。それぞれが立派に成長され、中国で活躍されている姿を目の当たりにし、嬉しくもあり、誇らしげにも感じました。留学していた先生方も中国に帰国してからはなかなか会う機会がなく久しぶりに会ったとのこと、宴席が進むにつれ話が盛り上がり、楽しい一時を過ごすことが出来ました(写真)。

最後になりますが、歯学部のますますの発展を期待しております。

診療統計(平成20年7月分)

医事課課長 久米 徳明

| | 患者数 | 1日平均 | 前月1日平均 | 前年1日平均 |
|------|--------|-------|--------|--------|
| 外来患者 | 18,553 | 713.6 | 709.9 | 723.3 |
| 入院患者 | 363 | 11.7 | 13.1 | 13.3 |

歯学教育者ワークショップ(ビギナーコース)に参加して

口腔生化学教室 山田 篤

7月29日から31日までの3日間、富士吉田にて第13回昭和大学歯学教育者のためのワークショップに参加して参りました。夏の富士吉田は初めてでしたが、東京に比べて涼しく、とても過ごしやすかったです。ご飯がとてもおいしく感じられ、ここで1年間寮生活を送る学生はとていい環境で学生生活を送っているのだなと感じました。



私を含めたビギナーコースは、D3臨床入門の一般目標と到達目標を決め、その評価方法について話し合いました。すでに、学生はD2で臨床入門を行っているため、より発展した目標の設定と高度な学習内容にすることが求められました。具体的な学習内容を決めることはとても難しかったのですが、同じ班の先生方のご尽力もあり、相互実習、模型実習、付き添い実習とバランス良く実習内容を決めることができたのではないかと感じました。評価方法に関しましては、学習意欲を向上させることを班の目標としていましたので、フィードバックを主体とした形成評価が有効ではないかと考えました。来年からユニットとして採用されるとのこと、具体的な計画を決めて、学生にとってより良いものになるようになればいいなと思いました。また、講演して頂いた大西弘高先生のお話は大変分かりやすく、医学教育を体系的に考えるきっかけを与えて下さいました。

最後になりましたが、本ワークショップを主催・運営されました方々に厚く御礼申し上げます。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 9月 6日(土): 歯科病院 臨床研修歯科医採用試験
- 9月14日(土): 歯学部オープンキャンパス
- 9月23日(火)-25日(木): 歯科基礎医学会
- 9月30日(火)-10月4日(土): D1早期体験実習
- 10月10日(金)-12日(日): 旗が岡祭・いぶき祭
- 10月18日(土): 富士吉田父兄会
- 10月21日(火): 解剖慰霊祭
- 10月31日(金): 歯科病院 臨床研修歯科医 マッチング発表

異動

広報委員長 井上 富雄

厚生労働省関東信越厚生局 臨床研修審査官
三森 香織(前 歯周病学 員外助教)

歯学教育者ワークショップ(アドバンスコース)に参加して 口腔外科学教室 新谷 悟

去る7月29日から31日にかけて富士吉田校舎で、第13回歯学教育者ワークショップが開かれました。今回は、理事長、学長、学部長、病院長はもとより、歯学部教授のほとんどが参加するという画期的なものになりました。アドバンスコースでは「昭和大学歯学部における卒業の要件」と「英語教育の目標」が話し合われましたが、中でも「卒業の要件」については優れた歯科医師を育てたいという理想と国家試験合格者をいかに上げるのかという現実の狭間での議論がなされました。



流れとしては、D2-3で、基礎を中心に夢を持たず教育、D4-5で、主に態度と技能を十分に付けさせる教育、D6では、ますます難しくなる国家試験に対応すると共に臨床の現場において自分で問題解決できる知識をのばす教育を行うという方向性が確認されたと思います。この熱い議論が現実となれば本当に国家試験の合格率も上昇し、昭和大学歯学部の卒業生はひと味違うと言われる様になると、参加した先生方が本当に笑顔で、そして真剣に話し合いました。そしてそのような想いを胸に2泊3日という長丁場にもかかわらず、熱い教育者魂を持ち議論し、酒を交わしながら語り合う昭和大学歯学部の教育者の一人であることを誇りに思う瞬間でした。昭和大学歯学部は教育においても日本一になると確信しました。

理事長、学長をはじめ、サポートしてくれたタスクフォースの先生方や事務の方々に感謝致します。ありがとうございました。

選択実習を体験して(南カリフォルニア大学, アメリカ) D6 澤田 絢美

歯学部で海外留学が出来るなんて！6年前、入学したばかりの私が夢にも思っていなかった事が現実になりました。私は5月7日から23日に南カリフォルニア大学(USC)に行かせて頂きました。将来、何らかの形で海外に行く希望がありますので、現地の人と交流しながら生の情報を得たいという思いで渡米しました。USCではPBL見学とUSCの歯科病院や研究施設、4か所の地域医療施設の見学をしました。また、学生はもちろん多くの日本人歯科医の方や、アメリカの免



許取得を目指している International Student の方々とも交流しました。免許取得、多額の費用、言葉の壁に苦心しながらも澁刺としている先生方は、輝いて見えました。

最も印象的だったのは、患者を治療する学生のアシストをしていた時に見た光景です。長引く治療に耐えられず怒りだした患者に、学生は焦らず対処し自分の力で関係改善をしていました。4年制のUSCでは3年から患者を治療しますが、私とほぼ同じ年なのに度胸があり患者との信頼関係もしっかり構築していたので、見習いたいと思いました。

7月12日に歯科医学教育学会において、このような選択実習での経験を口頭発表しました。今は2人の友達(鈴木芳恵さん、森田麻友さん)とともに、朝9時からafter 5の予定までぎっしり詰まった約3週間を有意義に過ごせたことがとても嬉しいです。この経験を次なる目標への布石にしたいと思います。最後になりますが、大変お世話になったUSCの先生方、そして昭和大学の先生方に心から感謝いたします。

情報ネットワーク委員会が設置されました 歯科薬理学教室 山田 庄司

大学の置かれた環境は厳しさを増し、個々の教職員の仕事量は限界に近付いており、情報ネットワークを活用した効率化、省力化を図る必要があります。そこで、昭和大学のネットワークを利用する者が、教育、研究、事務活動(診療を除く)にとってより良いネットワーク環境を構築するための提言を総合情報管理センター運営委員会に提言すると共に、ネットワークの利用促進を図るために、情報ネットワーク委員会が新たに設置されました。

この委員会は昭和大学すべての学部、附属病院、事務系の部局から選出された委員で構成され、各委員が所属する部局から持ち寄ったネットワーク環境に関する要望を討議、調整し、昭和大学ネットワーク環境の改善に関する提言を行うと共に、利用促進のための支援を行うことが目的です。

私が初代委員長を拝命することになりました。まもなく活動を開始し、活動状況は学内ネットで公開する予定です。昭和大学ネットワーク環境の改善のために皆様のご協力をお願いいたします。

専門医取得 広報委員長 井上 富雄

日本顎関節学会 指導医 取得
船登雅彦(歯科補綴学教室 講師)

編集後記

歯科放射線学教室 松田 幸子

今年の夏も多くの先生や学生さんたちが脳に汗をかきながら学んだり考えたりしている姿をお届けします。よりよい教育とは何かを試行錯誤しながら歯学部は日々進化しています。ぜひ応援してください。